



百人一首 (うたばんごう 歌番号: 1 ~ 5)

<p>おくやま 奥山に もみじふ 紅葉踏みわけ なしか 鳴く鹿の こえき 声聞く時ぞ あきかな 秋は悲しき</p> <p>さるまるだゆう 猿丸大夫</p> 	<p>たごうら 田子の浦に うち出でて見れば しろたえ 白妙の ふじのたかね 富士の高嶺に ゆき 雪は降りつつ</p> <p>やまべのあかひと 山部赤人</p> 	<p>あしびきの やまどり 山鳥の尾の しだり尾の ながながし ながながし夜を ひとりかも寝む</p> <p>かきのもとひとまる 柿本人麻呂</p> 	<p>はるす 春過ぎて なつき 夏来にけらし しろたえ 白妙の ころも 衣ほすてふ あま 天の香具山</p> <p>じとうてんのう 持統天皇</p> 	<p>あき 秋の田の かりほの庵の とま 苦をあらみ ころも わが衣手は つゆ 露にぬれつつ</p> <p>てんちてんのう 天智天皇</p> 
<p>こえきくと きぞあきは かなしき</p>	<p>ふじのたか ねにゆきは ふりつつ</p>	<p>ながながし よをひとり かもねん</p>	<p>ころもほす ちようあま のかぐやま</p>	<p>わがころも ではつつゆに ぬれつつ</p>